

指導資料

 鹿児島県総合教育センター

社会 第124号

— 中学校，特別支援学校対象 —
平成26年4月発行

中学校社会科における生徒の思考過程を踏まえた 板書計画とノート指導の在り方

学習内容の習得を図るためには、授業中に生徒が思考・判断・表現する場面を設定するとともに、その思考過程を記録に残し、振り返りによって確実な定着を行わせる必要がある。中学校社会科における記録の媒体は教師にとっては黒板が中心であり、生徒にとってはノートが中心となる。そこで、生徒の思考過程を踏まえた板書計画とノート指導のより効果的な在り方について述べる。

1 社会科における思考過程

社会科における思考過程とは、学習課題を設定する場面、学習課題について資料を基に追究する場面、学習課題に対する追究結果をまとめ解決する場面という一連の学習過程において、生徒が思考力を発揮して学習を進める過程であると捉えることができる。教師はそれぞれの場面で必要な思考を生徒にさせるため、教材研究において各場面での思考過程を想定し、結果を黒板に表現する準備をしておかなければならない。

生徒は、知識や技能を習得しながら、自分の考えなどをノートに記録していくことで、思考を深めていくことになる。

2 板書の機能

ノート指導の前段階としての、板書の機能について述べる。板書には表1に示すような機能があり、授業を構成する重要な役割を担っている。

表1 板書の機能

学習内容構造化	具体的な学習内容を抽象化したり、学習の流れを構造化したりする機能
伝達・説明機能	教師が伝えたい、教えた知識を学級全体に周知させる機能
集中機能	学習課題等を明示し、生徒の思考を集中させる機能
記録機能	授業の内容や生徒の思考・追究過程を連続的に位置付けていく機能

授業の流れや生徒の思考過程等を、いかに構造的に板書にまとめられるかは教師の授業力の重要な要素である。

望ましい板書の条件（確認項目）としては、次に示すようなことが挙げられる。

<input type="checkbox"/>	授業の流れが構造的にまとめられている板書
<input type="checkbox"/>	学習内容が整理され、授業のポイントが明確に見える板書
<input type="checkbox"/>	生徒の思考が見える（思考の変化が見える）板書
<input type="checkbox"/>	生徒とともに作り上げる板書
<input type="checkbox"/>	学習後、授業の内容を想起することができる板書

3 ノートづくりの指導

生徒が、授業中だけでなく、家庭学習において授業の内容を復習し、確実に習得できるようにするためにも、ノートづくりの指導が重要である。そのためのノートづくりの指導の例を下に示す。

- 分野ごとにノートをつくる。
- 最後のページまで使う。(ページを破らない。)
- 丁寧に書くようにする。
- 読みやすく工夫する。(ペンの色使いを決める。)
- 自分が考えたことなどを書き加える。

なお、板書事項を、ノートにどのように書き写していけばよいか分らず、雑然としたノートになっている生徒も存在する。これは、黒板が横長であるのに対し、ノートの1ページが縦長であることに起因すると思われる。

そこで、図1に示すように、板書事項とノートが視覚的に対応するように計画し、1単位時間の学習ノートを見開き2ページで作るよう指導することを提案したい。

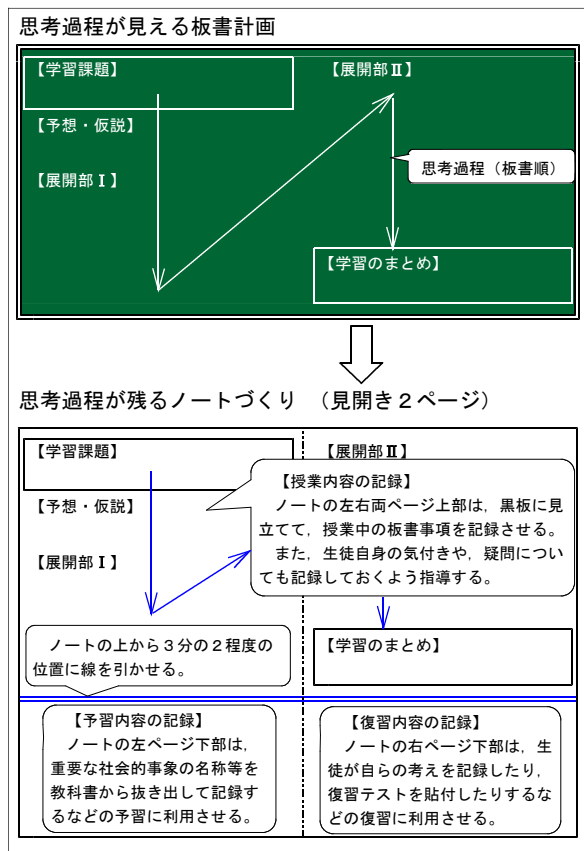


図1 板書とノートの対応

1単位時間の学習は、教科書でも見開き2ページで構成されているため、生徒にも理解しやすく、復習しやすいノートとなる。

また、教師が、生徒のノートを意識して毎時間の板書計画を行うようになり、教材研究が充実する。

4 生徒の思考過程を踏まえた板書計画

本時の学習課題、学習内容、まとめなどをどのように配置して板書するかを教師が考え、準備することで、生徒に思考させる授業の流れや場面が見えてくる。教材研究における板書計画は、望ましい板書の条件を満たすよう、次のような手順で行う。ここでは、歴史的分野「古代までの日本」における「律令国家の成立と平城京」を例に述べる。

- ① 学習指導要領及び、その解説から、本単元及び本時において理解させるべき内容を明確にする。

『中学校学習指導要領解説社会編』における本時の学習の箇所には次のように記されている。

- (2) 古代までの日本
イ 律令国家の確立に至るまでの過程、撰開政治などを通して、大陸の文物や制度を積極的に取り入れながら国家の仕組みが整えられ、その後、天皇や貴族の政治が展開したことを理解させる。

これにより、本時においては、「大陸の文物や制度を積極的に取り入れながら国家の仕組みが整えられたことを理解させる」必要があることが明らかになる。

- ② 学習課題の追究に必要な資料を準備し、提示目的を明確にする。

教科書に掲載されている資料は、必ず活用したい。その際には、表 2 に示すように提示目的を明らかにしておくことが重要である。

表 2 資料（例）とその提示目的

資料（例）	提示目的
平城京と朱雀門 （写真，模型写真）	規模，市の存在，造営の目的等について読み取らせる。
富本銭，和同開珎，開元通宝（写真）	大陸の文物が取り入れられていることに気付かせる。
五畿七道（地図）	中央政権が地方を治める仕組みに気付かせる。
律令による役所の仕組み（模式図）	天皇の命令が確実に地方に伝わるか，考察させる。

また，社会科資料集等に掲載されている資料や郷土資料，ICTを用いる場合も同様である。

③ 学習課題を想定する。

本時の学習課題は，生徒の考えを基に設定することが望ましい。そこで，学習課題をいくつか想定しておき，授業中の生徒の発表を大事にしながら，これを設定するようにする。次に，本時において想定される学習課題の例を示す。

例 1	律令国家はどのようにしてできあがったのでしょうか。
例 2	律令国家では，中央集権化をどのようにすすめたのでしょうか。
例 3	我が国は，律令を取り入れることで，どのような国家をつくらうとしたのでしょうか。

例 1 は，律令国家が中央集権的な仕組みを作ろうとしたことや，その過程を追究するように設定した標準的な学習課題である。

例 2 は，律令国家による中央集権化の過程について追究するように設定した，追究内容を比較的焦点化させやすい学習課題である。

例 3 は，律令制度を取り入れたことの意味や意義について，我が国が大陸にならって中央集権国家を作ろうとしたことを踏まえて追究するように設定した学習課題である。

④ 学習課題に対する生徒の予想や仮説を想定する。

教材研究の段階で，生徒の予想や仮説を想定しておき，板書計画に入れておくことで，生徒の思考の過程を踏まえた構造的な板書になる。

⑤ 展開場面を工夫する。

追究の展開場面では，社会事象について，当該時間の評価規準や教科書等の記述から，その意味や意義などをまとめる。

方法としては，各資料から必要な情報を読み取ったことや，解釈（思考）したこと等について整理する。例えば展開 I では，和同開珎の写真を提示し，唐の開元通宝にならったことについて考えさせ，板書する。展開 II では役所の仕組み図や五畿七道の地図を提示し，天皇の命令が確実に地方に伝わっていたこと，地方の農民の力を利用して都を造営したことなどについて考えさせ，板書する。

⑥ 学習課題のまとめを想定する。

学習課題のまとめに当たっては、生徒が学習内容を踏まえてまとめることができるよう板書上のキーワードを再確認するなどの指導をする。本時においては、大陸の文物や制度を積極的に取り入れながら国家の仕組みが整えられたことが生徒に理解させたい内容であるため、これを確認する。

また、右の例1～例3に示すように、授業の導入時に設定した学習課題に対応して、まとめ方も変わる。

例1	律令国家は、大陸の文物や制度を積極的に取り入れながら中央集権的な仕組みを整えることで、できあがった。
例2	律令国家では、唐にならった都をつつたり、地方と結ぶ道路を整備したりして、天皇の力が地方に伝わりやすい仕組みを作った。
例3	我が国は、天皇中心の中央集権国家をつくるために、中央集権化が進んでいた唐の律令制度や文物を取り入れた。

※ p 3 の学習課題の例1～3に対応する。

以上の手順(①～⑥)を踏まえた板書計画をノートの例で図2に示す。

板書計画の手順

① 学習指導要領及び、その解説から、本単元及び本時において理解させるべき内容を明確にする。	② 学習課題の追究に必要な資料を準備し、提示目的を明確にする。	③ 学習課題を想定する。	④ 学習課題に対する生徒の予想や仮説を想定する。	⑤ 展開場面を工夫する。(資料から読み取れることや解釈できることを中心に)	⑥ 学習のまとめを想定する。
---	---------------------------------	--------------	--------------------------	---------------------------------------	----------------

No. DATE . . . ③

【学習課題】律令国家はどのようにしてできあがったのでしょうか。

【予想】律令国家は天皇を中心としてできあがった。④

大宝律令 「律」=刑罰のきまり →唐の法律にならう (701年)
「令」=政治のきまり →律令国家へ

平城京 奈良盆地北部に造営 (710年) ⑤ (交通の便が良い)
和同開珎(珍・寶) ② (「天子南面」思想) (708年)
平城宮 和珎開 開寶通元 (唐銭にならった)
右京 左京 外京 (政治の仕組みが整った)
西市 東市 東西の市 ⑤ 大陸の文物、制度にならった。

【予習】

1	701 (大宝元) 年	6	長安	11	国司
2	大宝律令	7	奈良時代	12	郡司
3	律令国家	8	和同開珎	13	大宰府
4	710 (和銅3) 年	9	太政官	14	五畿七道
5	平城京	10	国府	15	多賀城

No. DATE . . .

都と国 五畿七道とは? ②

→ 「畿内」から放射状に七つの道が作られた。
※ 「道」=道路、国々 (地方へ命令しやすい)

大宰府 政治 外交 防衛
山陰道 山陽道 北陸道 東山道 東海道 南海道 西海道
薩摩国府 大隅国府 (国司が治める) (713年大隅国が日向国から分置された)
多賀城 (政治・軍事)

郡、始置(大隅国) (統日本紀)
(和七〇六年)夏四月乙未(中略)割日向国肝坏・贈於大隅・始置大隅国

【まとめ】律令国家は大陸の文物や制度を積極的に取り入れながら中央集権的な仕組みを整えることで、できあがった。

【復習テスト】

1	全国を支配するため定められた仕組みは何か。	大宝律令
2	唐をまねて発行された通貨は何か。	和同開珎
3	平城京に遷都されたのは西暦何年か。	710年
4	九州の政治や外交に当たる役所は何か。	大宰府
5	東北の政治や軍事に当たる役所は何か。	多賀城
6	平城京という都をつくることのできたのはなぜか。(地方の農民を集める仕組みがあった。)	

強い権力により、地方の農民を労働力にすることができた。

図2 生徒のノートの例

本稿では、社会科における生徒の思考過程を踏まえ、ノート指導の在り方と、そのための板書計画について紹介してきた。授業や自宅学習において何度も活用させ、生徒が卒業後も永久保存しておきたいと思うような構造的で魅力的なノートづくりをさせていきたい。

- 引用・参考文献—
- 文部科学省『中学校学習指導要領解説社会編』平成20年、日本文教出版
 - 五味文彦 他『新しい社会 歴史』平成23年、東京書籍
 - 田山修三『若い教師を育てる図解式板書術』平成22年、小学館
 - 太田あや『東大合格生のノートは必ず美しい』2008年、文芸春秋
 - 安野功『「社会科ノート」による思考力の育成』2008年、東洋館出版社
- (教科教育研修課)